

## 運賃に関する事例と検討方針

CoCoバス運賃検討の参考とするため、東京都内の特別区（23区）及び市（小金井市を含む26市）、全国の政令指定都市（20市）を対象に事例を整理した。整理に際しては各自治体のホームページに記載されている情報を基準とした。（2020年7月時点）

対象自治体でのコミュニティバス等<sup>(※)</sup>の運行状況を下表に示す。

図表1 コミュニティバス等導入状況

区分		対象自治体数	コミバス導入自治体数	コミバス導入割合
東京都	23区	23	20	87%
	26市	26	23	88%
政令指定都市		20	17	85%

※定時定路線であり利用者を限定しないものを対象

### 1) CoCoバスの運賃の状況

現在のCoCoバスにおける運賃は以下のとおり。

- 基本運賃：100円均一（多摩地区の路線バス運賃の初乗り運賃（180円）の約半額）
- 各種割引：未就学児 無料のみ
- 回数券：21枚綴り 2,000円（全路線共通）

## 2) 基本運賃に関する事例

### (1) コミュニティバス等の運賃(多摩 26 市中導入 23 市・28 路線)の比較

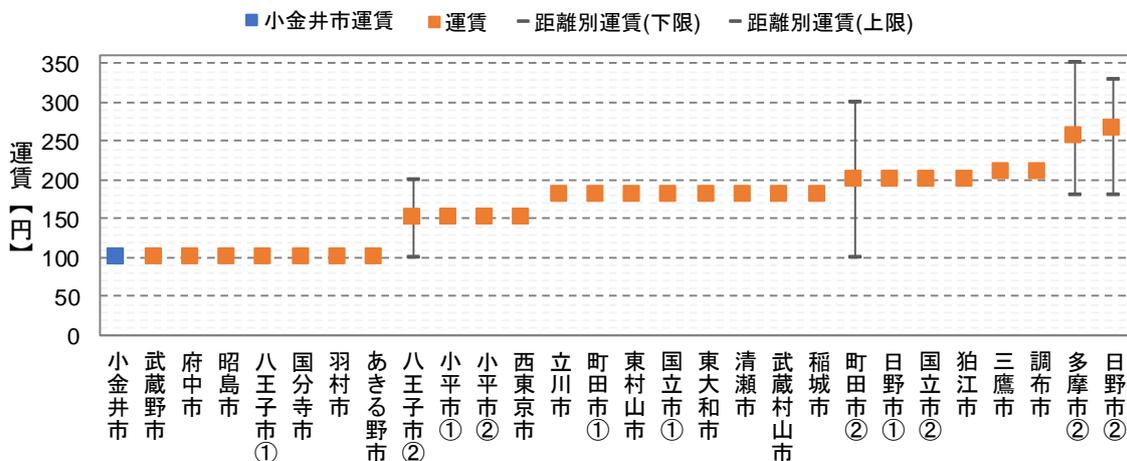
多摩 26 市のうち、コミュニティバスを導入している 23 市 (28 路線<sup>(※1)</sup>) におけるコミュニティバス等の運賃一覧を以下に示す。

- 現在の CoCo バスと同じ、100 円均一としているのは 7 路線 (小金井市含む)
- 最も多い運賃帯は、180 円均一で 8 路線
- 路線バスに多くみられる、距離による変動型を採用しているのは 4 路線
- 多摩 23 市におけるコミュニティバス等の運賃平均<sup>(※2)</sup> は約 160 円

※1： 運賃や運行形態の異なる路線は別路線として整理

※2： 平均値の算出に際し、距離により運賃が変動する路線については価格帯の中央値を使用

図表 2 多摩 23 市/28 路線運賃一覧



### (2) 路線バス運賃との比較

路線バス運賃との比較に当たり、路線バスよりと比べて「高い」「同等」「低い」の3つの運賃区分に分けて比較した。なお、同じ自治体でも路線によって運賃設定が異なるため、運賃区分の異なる路線を持つ自治体はそれぞれの運賃区分に算入した。

- 路線バスより高い運賃を設定している自治体は、市部と政令指定都市の一部であった。
- 路線バスより安い運賃を設定している例は、東京 23 区内が多い。

図表 3 他自治体のコミュニティバスの運賃価格状況

運賃区分	運賃区分	コミバス自治体数	割合	自治体名
路線バスより高い	定額	10	13%	三鷹市、調布市、日野市、国立市、狛江市、仙台市、千葉市、川崎市(他2市)
	変動	2	3%	浜松市、岡山市
路線バスと同等	定額	19	25%	港区、世田谷区(他東京5区)、立川市、町田市(他東京6市)、新潟市(他3市)
	変動	12	16%	江戸川区、日野市、多摩市、さいたま市、千葉市、川崎市、相模原市、新潟市(他4市)
路線バスより安い	定額	26	35%	千代田区、中央区(他東京11区)、八王子市、武蔵野市(他東京8市)、新潟市(他3市)
	変動	6	8%	八王子市、町田市、新潟市、静岡市、堺市、神戸市

※上記区分は初乗り運賃で分類、一部区間 100 円などの特殊運賃は考慮していない。

※路線バスと同等とはコミュニティバス運賃と路線バス運賃の差が±10 円以内のものとした。

### (3) IC 運賃

- 東京 23 区では約 3 割、市部で約 4 割、政令指定都市では約 2 割の自治体が導入

図表 4 IC 運賃の導入状況

区分		導入自治体数	導入割合	適用対象路線の基本運賃
東京都	23区	5	25%	荒川区(160円)、世田谷区、葛飾区(210円)、豊島区(220円)、足立区(180-220円)
	26市	10	43%	町田市、東村山市、国立市、東大和市、清瀬市、武蔵村山市、稲城市(180円)、調布市(210円)、多摩市(180-330円)、日野市(180-350円)
政令指定都市		3	18%	千葉市(170-310円)、さいたま市(180-270円)、相模原市(180-270円)

※IC 運賃に関して

平成 26 年 4 月の消費税率の引き上げに伴い、運賃改定申請が出てくる場合には、消費税率の引上げ分をより正確に転嫁する観点から、その転嫁の手法として、IC カード「1 円単位運賃」の導入を認める方針に基づき設定。(平成 25 年 10 月 29 日 国土交通省)

### (4) 運行バスの車種別運賃

ワンボックスタイプの車両で運行している他自治体は、多摩 26 市では 6 自治体のみである。それぞれの基本運賃は下表の通りとなり、各自治体ともに、バスタイプとワンボックスタイプとでは概ね同等の運賃となる。

図表 5 他自治体のコミュニティバス等の運賃価格状況

自治体	バスタイプ		ワンボックスタイプ	
	運賃	IC可否	運賃	IC可否
小金井市	100円	×	100円	×
八王子市	100-200円	○	100円	×
小平市	150円	○	150円	×
日野市	180-350円	○	200円	×
国分寺市	100円	○	100円	×
国立市	180円	○	200円	×

### 3) 支払い形態による割引

以下の3項目について整理した。

- 回数券
- 定期券
- バス利用特典サービス（バステ）

#### (1) 回数券

- 東京23区、政令指定都市では約5割、市部では約6割の自治体が導入
- 割引の割合は概ね1割程度となっている。

図表6 回数券の導入状況

区分		導入自治体数	導入割合	適用対象・手法
東京都	23区	10	50%	・中央区(100円11回分:1,000円)、港区(220円10回分:2,000円、220円28回分:5,000円)等
	26市	14	61%	・府中市(100円21回分:2,000円)、国立市(90円25回分:2,000円、90円12回分、10円2枚:1,000円)等
政令指定都市		8	47%	・京都市(210円11回分:2,000円)、神戸市(300円11回分:3,100円)等

#### (2) 定期券

- 東京23区で約7割、市部で約3割、政令指定都市では約6割の自治体が導入
- 中央区等、無記名式の持参人式定期券<sup>(※)</sup>もある。

※ 持参人式定期券：持参人1名に限り誰でも利用可能

図表7 定期券の導入状況

区分		導入自治体数	導入割合	適用対象路線の基本運賃
東京都	23区	14	70%	・定期券割引や無記名式の定期券を発行する自治体も存在(千代田区、中央区、港区、文京区、台東区、北区、墨田区(100円)、荒川区(160円)、世田谷区、葛飾区(210円)、板橋区、練馬区(220円)、足立区(180-220円)、江戸川区(210-420円))
	26市	7	30%	・定期券割引対象(町田市、稲城市(180円)、狛江市(200円)、三鷹市、調布市(210円)、日野市(180-350円)、多摩市(180-330円))
政令指定都市		10	59%	・定期券割引対象(北九州市、千葉市、静岡市、新潟市(200円)、名古屋市(210円)、熊本市(160-250円)、堺市(170-260円)、相模原市(180-270円)、浜松市(200-400円))

※回数券/定期券に関して

一般乗合旅客自動車運送事業の運賃及び料金に関する制度（平成24年7月31日・国土交通省自動車局長）にて、特別初乗運賃（いわゆる100円バス）や、過疎地、離島及び交通空白地等地域の実情に応じて設定する場合を除き、定期旅客運賃・回数旅客運賃のいずれかを設定する必要があるとされている。なお、協議運賃の場合これに該当しないが、これに準じて設定する等、合理的かつ利用者に明確な手法により設定することが望ましいとされている。

### (3) バス利用特典サービス(バ斯特)

バス利用特典サービスとは、1ヶ月間(毎月1日～末日)におけるPASMO・Suicaでのバス利用額に応じて、バス運賃の支払いに使用できる「特典バスチケット」がカード内に自動的に付与されるサービスである。

- 東京23区で6割、市部では約7割、政令指定都市では約2割の自治体が導入
- 導入自治体は基本運賃200円前後が多いが、100円の基本運賃でも6つの自治体で導入されている。

図表8 バス利用特典サービスの導入状況

区分	導入自治体数	導入割合	適用対象路線の基本運賃
東京都	23区	12 60%	・バス利用特典サービス(バ斯特)対象 (中央区、文京区、江東区、北区、墨田区(100円)、大田区(160円)、世田谷区、葛飾区(210円)、板橋区、練馬区(220円)、足立区(180-220円)、江戸川区(210-420円))
	26市	15 65%	・バス利用特典サービス(バ斯特)対象 (羽村市(100円)、小平市(150円)、立川市、町田市、東村山市、国立市、武蔵村山市、稲城市、清瀬市(180円)、狛江市(200円)、三鷹市、調布市(210円)、八王子市(100円-200円)、日野市(180-350円)、多摩市(180-330円))
政令指定都市	3	18%	・バス利用特典サービス(バ斯特)対象 (千葉市(170-310円)、さいたま市(180円-270円)、相模原市(180円-220円))

### 4) 特定の利用者等に対する割引

割引に関する事項として以下の6項目について整理した。

- シルバーパス
- 高齢者割引
- 子供割引
- 障がい者割引
- 学生割引
- その他割引

#### (1) シルバーパスの導入状況

- 東京23区と市部で約4割の自治体が、コミュニティバス利用時でもシルバーパスの提示により運賃を無料としている。
- シルバーパスを導入している自治体の基本運賃は概ね200円前後となっている。
- 東京都シルバーパス条例施行規則では、コミュニティバスはシルバーパスの適用対象外となっており、東京都からの補助を受けることができないため、導入に当たっては、運賃収入の減収分を市が補助する必要がある。

図表9 シルバーパスの導入状況

区分	導入自治体数	導入割合	適用対象路線の基本運賃
東京都	23区	7 35%	・東京都発行シルバーパスで無料 (荒川区(160円)、世田谷区、葛飾区(210円)、豊島区、板橋区、練馬区(220円)、足立区(180-220円))
	26市	10 43%	・東京都発行シルバーパスで無料 (八王子市(100-200円)、調布市、町田市、稲城市、武蔵村山市、国立市(180円)、狛江市(200円)、三鷹市(210円)、多摩市(180-330円)、日野市(180-350円))
政令指定都市	—	—	—

## (2) 高齢者割引

- 基本運賃 100 円から割引を行っているのは 2 自治体（港区・大阪市）のみで、基本運賃 200 円前後から割引を行っている自治体が多い。
- 割引額が大きいものでは、基本運賃 210 円が無料になる場合（京都市・名古屋市）があり、それ以外では概ね 50 円～100 円程度の割引となっている。

図表 10 高齢者割引の導入状況

区分		導入自治体数	導入割合	適用対象・手法
東京都	23区	7	35%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・65歳以上で220円が半額（練馬区）</li> <li>・65歳以上でナイスバス購入可、運賃が100円（世田谷区）</li> <li>・65歳以上で彩京のびのびバス購入可、半年バス（板橋区、足立区）</li> <li>・70歳以上でゴールド・ダイヤモンドバス購入可、半年年間バス（荒川区、江戸川区）</li> <li>・港区コミュニティバス乗車券（1,000円）を購入で100円が無料（港区）他</li> </ul>
	26市	7	30%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・65歳以上でナイスバス購入可、運賃が100円（狛江市、稲城市、調布市、三鷹市）</li> <li>・70歳以上で180円から80円引き（町田市）200円から100円引き（国立市）</li> <li>・75歳以上で敬老回数券1,500円分が1,000円（西東京市）</li> </ul>
政令指定都市		12	71%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・65歳以上でリューと（ICカード）210円から110円引き（新潟市）</li> <li>・65歳以上にワイドフリー定期券（浜松市）</li> <li>・70歳以上で220円～260円から100円引き（川崎市）</li> <li>・敬老優待乗車証等利用で100円が50円（大阪市）/210円が無料（京都市、名古屋市）他</li> <li>・100円で1000円分をICにチャージ可能（仙台市）</li> <li>・かなちゃん手形（3カ月3,500円）利用で180～270円が1乗車100円（相模原市）</li> </ul>

## (3) 子供割引

路線バスより低い基本運賃で運行を行う自治体の中で、子供料金を設定している場合<sup>(※1)</sup>を、子供割引実施の対象自治体とした。

- 東京 23 区約 2 割、市部約 1 割、政令指定都市では約 3 割の自治体が導入している。
- 未就学児無料の割引制度<sup>(※2)</sup>は、東京 23 区と市部では全て、政令指定都市では岡山市を除く全ての自治体が導入している。

※1：一般乗合旅客自動車運送事業の運賃及び料金に関する制度（平成 24 年 7 月 31 日・国土交通省自動車局長）にて、普通旅客運賃の場合、小児片道普通運賃は半額と規定されていることから、それに則る割引は対象外として整理。（小児：小学生以下）

※2：保護者 1 人に付き対象人数上限がある等の割引条件は存在

図表 11 子供割引の導入状況

区分		導入自治体数	導入割合	適用対象・手法
東京都	23区	4	20%	・墨田区（50円）、大田区（80円）、荒川区（80円）、足立区（90円）
	26市	3	13%	・八王子市（50円）、小平市（80円）、西東京市（100円）
政令指定都市		5	29%	・新潟市（80円）、京都市（110円）、大阪市（50円）、堺市（90円）、神戸市（80円）

#### (4) 障がい者割引

- 基本運賃 100 円から割引を行っているのは 5 自治体（千代田区・港区・墨田区・八王子市・大阪市）のみで、基本運賃 200 円前後から割引を行っている自治体が多い。
- 障がい者手帳の提示で半額になる場合が多く、無料とする自治体もある。
- 障がいの種類や等級によって対象外になる場合や、介助者にも適用される場合もある。

図表 12 障がい者割引の導入状況

区分		導入自治体数	導入割合	適用対象・手法
東京都	23区	11	55%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風ぐるま区民バスポートとして1年間券を1,000円で販売(千代田区)</li> <li>・身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳の提示により半額-無料(千代田区他)、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳も対象(港区)</li> <li>・一般乗合旅客自動車運賃割引証明書(足立区)、民営バス乗車割引証(練馬区)</li> </ul>
	26市	15	65%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳の提示により50円引き-半額(八王子市他)、戦傷病者手帳も対象(東大和市、清瀬市)</li> <li>・民営バス乗車割引証(調布他)</li> <li>・ミライロID(障害者手帳アプリ)(東村山市)</li> </ul>
政令指定都市		16	94%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害者手帳、愛の手帳提示により半額-無料(堺市他)、精神障害者保健福祉手帳も対象(さいたま市他)、被爆者健康手帳も対象(仙台市)、戦傷病者手帳も対象(名古屋市)</li> <li>・各自治体で福祉バス発行(京都市他)</li> <li>・一般乗合旅客自動車運賃割引証明書(京都市他)</li> <li>・特別支援学校生(名古屋市)</li> </ul>

図表 13 障がい者割引(介助・付き添い者)の導入状況

区分		導入自治体数	導入割合	適用対象・手法
東京都	23区	9	45%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす利用者に介助者1名5割引(港区)4名5割引(足立区)</li> <li>・手帳種類等級指定なしで全額(墨田区)、必要と認める場合5割引(豊島区、足立区)</li> <li>・第1種で5割引(世田谷区他)他</li> </ul>
	26市	15	65%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす利用者に介助者1名5割引(西東京市)、2名5割引(三鷹市、調布市他)</li> <li>・手帳種類等級指定なしで5割引(日野市他)、必要と認める場合5割引(町田市)</li> <li>・第1種で5割引(世田谷区他)、必要と認める場合5割引(国立市)他</li> </ul>
政令指定都市		13	76%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす利用者に介助者3名全額(京都市)</li> <li>・手帳種類等級指定なしで5割引(静岡市)、必要と認める場合5割引(京都市他)</li> <li>・第1種で5割引(堺市他)、第2種「要介護」等の表示5割引(さいたま市)</li> <li>・地域の福祉バス提示5割引(相模原市)他</li> </ul>

## (5) 学生割引

- 東京 23 区では 4 割、市部では約 3 割、政令指定都市では約 7 割の自治体で、学生を対象に割引率の高い定期券や学生割引を導入している。
- 導入している自治体の基本運賃は 200 円前後が大半を占めている。

図表 14 学生割引の導入状況

区分		導入自治体数	導入割合	適用対象路線の基本運賃
東京都	23区	8	40%	・学生定期券を設定 (荒川区(160円)、世田谷区、葛飾区(210円)、港区、板橋区、練馬区(220円)、足立区(180-220円)、江戸川区(210-420円))
	26市	7	30%	・学生定期券を設定 (町田市、稲城市(180円)、狛江市(200円)、三鷹市、調布市(210円)、日野市(180-350円)、多摩市(180-330円))
政令指定都市		11	65%	・中高生100円引き(新潟市(210円))、50円引き(北九州市(250円))、40円引き(川崎市(220円)) ・学生定期券を設定(静岡市(200円)、名古屋市(210円)、北九州市(250円)、千葉市(300円)、堺市(170-360円)、相模原市(180-270円)、浜松市(200-400円))他

## (6) その他割引

その他の割引として、以下のような事例がみられる。

- 区民に限定しての割引(千代田区)
- パークアンドバスライド<sup>(※)</sup>を推奨した割引(新宿区)
- 長期休暇期間に子供への運賃を割引(日野市・小平市 他)
- 通勤定期保有者の家族への運賃を割引(世田谷区、調布市 他)
- 地域の周辺施設への割引サービスなどを提供

※ バス停付近まで自家用車などで行き、周辺駐車場に駐車し、その後バスを利用して目的地まで移動する方法。

図表 15 その他割引の導入状況

区分		導入自治体数	割合	適用対象・手法
東京都	23区	6	30%	・区民割引制度1ヶ月券1,000円等(千代田区) ・東京都庁第一本庁舎駐車場に止めてWEバス利用で8人まで利用できる1日乗車券を400円で発行(パークアンドバスライド割引)(新宿区) ・長期休暇期間(春夏冬GW)小児運賃が50円(世田谷区、練馬区) ・通信教育性、放送大学生2割引(江東区、足立区) ・環境定期券制度:通勤定期券所持者同伴家族割引(世田谷区、練馬区)他
	26市	12	52%	・三鷹の森ジブリ美術館往復割引大人320円小児160円(三鷹市) ・休日に定期所有者の家族が100円-250円(日野市)が100円、200円が100円(狛江市)、定期所有者は区間外100円(日野市)、小児50円で利用可能(日野市、狛江市) ・長期休暇期間(春夏冬GW)小児運賃が50円(狛江市、東村山市、三鷹市、調布市他) ・ファミリー割引、日曜日/春夏冬休みは大人1人につき子供1人無料(小平市) ・一部区間100円(日野市) ・環境定期券制度:通勤定期券所持者同伴家族割引(調布市、狛江市)他 ・65歳以上で免許自主返納者は100円が無料(あきる野市、国分寺市)
政令指定都市		13	76%	・サポーター登録(年間6,000円)で300円から50円引き(川崎市) ・長期休暇期間(春夏冬GW)小児運賃が50円(相模原市) ・運転免許返納者は半額(新潟市) ・周辺施設の割引クーポン等(福岡市・仙台市・新潟市) ・周辺施設へ買い物に行く運賃100円引(神戸市) ・一部区間100円(新潟市、北九州市) ・65歳以上の免許返納者に発行されるおかやま愛カードで200円-500円が半額(岡山市) ・60歳以上の免許返納者にワイドフリー定期券(浜松市) ・環境定期券制度:通勤定期券所持者同伴家族割引(相模原市、名古屋市、堺市)他

## 5) 乗継に対する割引

### (1) 乗継割引

- 東京都内では4割程度の自治体において乗継割引が導入されている。
- 多くがコミュニティバス間の乗継割引であるが、一部にはコミュニティバスから路線バスへの乗り継ぎを含めた割引を実施している自治体も存在する。
- 割引方法としては2便目が無料となる事例が最も多く、2便目が半額程度となる事例もみられる。
- 乗継割引の手法としては、乗継券の提示・ICカードの設定・口頭申請の3通りがみられる。

図表 16 乗継割引の導入状況

区分		乗継割引 導入自治体数	割合
東京都	23区	8	40%
	26市	8	35%
政令指定都市		4	24%

※コミュニティバスから路線バスへの乗り継ぎも含む

### (2) 1日乗車券

乗継割引の類似の施策として1日乗車券（周遊券）がある。

- 東京23区では約8割、市部と政令指定都市では約5割の自治体が導入している。
- コミュニティバスの運行会社によって、路線バスと共通で利用できる場合もある。
- コミュニティバスの基本運賃が100円前後の場合は1日乗車券の価格は300円程度、基本運賃が200円前後の場合は500円程度に設定している自治体が多い。

図表 17 1日乗車券の導入状況

区分	導入 自治体数	導入割合	適用対象・手法
東京都	23区	15	75% ・300円：中央区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、北区 ・500円：港区、台東区、墨田区、世田谷区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区 ・520円：墨田区、大田区、世田谷区、荒川区、江戸川区 他
	26市	11	48% ・300円：昭島市、400円：小平市 ・500円：武蔵村山市、東村山市、日野市、東大和市 ・520円：三鷹市、調布市、町田市、狛江市、稲城市
政令指定都市	8	47%	・320円：京都市 ・500円：福岡市、千葉市、新潟市 ・620円：名古屋市・630円：仙台市・700円：熊本市・1050円：相模原市

## 6) 今後の検討方針

### (1) 基本運賃について

前頁までの事例等の整理結果から、以下の事項について整理が必要である。

- 運賃の形態：均一制 / 対キロ区間制（距離により運賃額が変動）
- 運賃額：100円 / 路線バス運賃と同等（150円、180円、210円等）

運賃の形態について、CoCoバスは循環型路線であるため、対キロ区間制は馴染まない。また、運賃額については、基本方針に基づき、CoCoバスと路線バスとの運賃格差による競合・地域間格差の解消等を図る必要がある。

### (2) 運賃割引について

運賃割引の導入検討に当たり、以下のような課題が生じると考えられる。

- 多岐手法によるバス運転士負担の増加の可能性（安全確保や遅延等、運行に支障をきたす可能性）
- CoCoバス路線間におけるサービスに差が生じる可能性（設備や運行事業者の違いにより対応が異なる可能性）
- 減収による補助金（財政負担）増加の可能性

### (3) 検討の方向性

上記(1)・(2)を踏まえ、以下の方向性にて検討を行う。

- ① 基本運賃について、運賃体系は現行路線と同様の均一制、運賃額は路線バスの初乗り運賃と同程度とする。また、小児運賃やIC運賃の設定も検討する。
- ② 基本運賃額を①とした場合には、他自治体事例や路線バスの運賃体系を参考に、基本方針に基づき交通弱者への配慮や財政負担等を考慮するとともに、導入に伴う課題等を踏まえながら、下表の割引制度の導入について検討する。

割引制度		現行路線での取扱有無	路線バスでの取扱有無	導入方向性	事例の記載頁
支払形態別	回数券 <sup>(※1)</sup>	○	○	課題ご意見を踏まえ検討	P.4
	定期券 <sup>(※1)</sup>	×	○		P.4
	バ斯特	×	○		P.5
対象者別	シルバーパス	×	○		P.5
	高齢者割引	×	事業者によって異なる		P.6
	子供割引 <sup>(※2)</sup>	○	○		P.6
	障がい者割引	×	○		P.7
	学生割引	×	○		P.8
乗継	乗り継ぎ割引	×	事業者によって異なる		P.9
	1日乗車券	×	○	P.9	
その他割引		×	事業者によって異なる	P.8	

※1：一般乗合旅客自動車運送事業の運賃及び料金に関する制度上、いずれかの設定が望ましい。

※2：「小児運賃」以外の割引運賃の場合として整理

7) 参考:各種割引導入状況一覧

図表 18 各種割引導入状況一覧

